

◎浜益のナマコ漁

地元で捕れたナマコを食べたことがありますか? 写真は6月16日(木)に浜益区で始まった水揚げの風景。ナマコは中国を中心に高級食材として引き合いが強く、8月中旬の漁期が終わるまで、漁師さんたちは大忙しです。市内では直売店や漁港朝市などで購入することができます。



◎おいしい浜益牛に ERIS

7月15日(金)、和牛の品評会に当たる「石狩管内肉用牛共進会」が、ホクレン主催により浜益区の御料地牧場で行われました。浜益区からは6軒の畜産農家が黒毛和種を出品。最優秀賞は惜しくも市外の牛に奪われましたが、笹雄一郎さんの「ゆりまち」(写真)、新岡雄一郎さんの「ひらつめつき」が優秀賞2席に入りました。

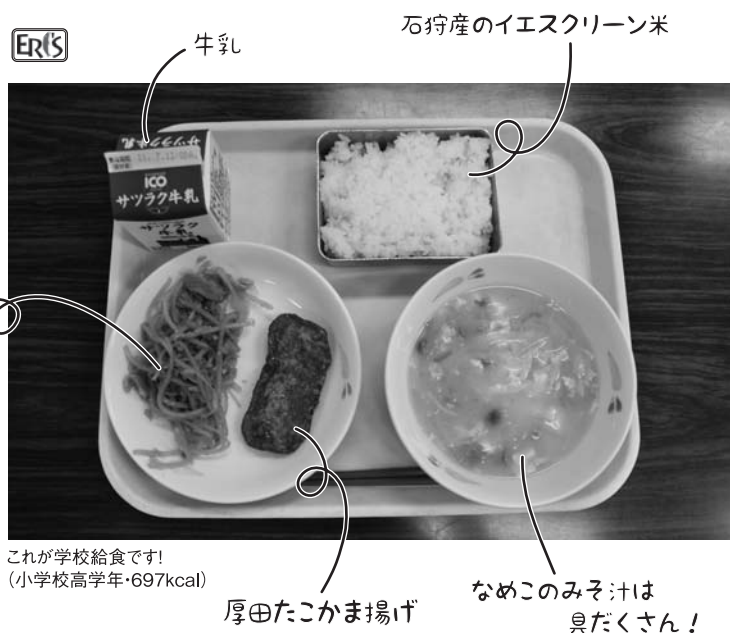


◎学校給食に「厚田たこかま揚げ」登場! ERIS

郷土を愛する心を育み、食に関する理解を深めてもらおうと学校給食では、これまでも「望来豚」を使ったり、「石狩鮭醤油ラーメン」など地産地消メニューが登場しました。そして、今回は厚田のたこが入った「厚田たこかま揚げ」が新メニューとして仲間入り! 7月4日(月)には市内全小中学校で同時提供され、市民へ試食の機会も設けられました。



市長も花川小学校で一緒に食べました。



これが学校給食です!
(小学校高学年・697kcal)

◎石狩のビジネスパーソンが集まる

7月15日(金)、花川北コミセンで開催された「石狩市異業種交流会」は、平成23年度協働事業提案の採択事業として、石狩青年会議所と市の協働により実現したもの。田岡市長の講演や(株)タナベ経営の笠島支社長の経営セミナーに続き、1分間企業PR、青年会議所によるカンボジア支援の報告、サーモンファイターショーのほか、石狩イコロの会による地元食材を使った食事が提供されました。初めての試みでしたが、市内の企業から200人近くの参加者が交流し、互いの企業活動に理解を深めることができました。



まちの話題

●まちの主な出来事を写真で振り返ります。

ERIS

いしかり浜サンドパーク2011

6月18日(土)～26日(日)、石狩浜にサンドパーク(砂の公園)がオープンしました。5つの巨大砂像と、来場者が参加して作った砂のサケが並んだほか、砂浜での宝探しやキャンドルナイトなども行われました。石狩観光協会による初の試みで、砂像作りには大学生や自衛隊OBなどが参加。全国でも鑑賞を目的としたサンドアートの制作はあまり例がなく、海水浴客たちも大変楽しそうに見つめていました。

写真は北海道教育大学岩見沢校の学生が制作した「継承」。



厚田海浜プールをきれいに

6月20日(月)、厚田小・中学校合同地域清掃が厚田海浜プール内で行われました。当日は、両校の児童生徒、PTA、地域のボランティア団体などたくさんの方々の手により、分別をしながら拾ったごみの量は270kgにもなりました。参加した皆さんは、「きれいな海浜プールにたくさんの方々を訪れ、ひと夏のいい思い出を作ってほしい」と思いを込めながら、ともにいい汗を流していました。



千本ナラのように

6月28日(火)、浜益区毘砂別にある巨木「千本ナラ」の近くで、浜益魚つきの森推進協議会の植樹が行われました。「魚つきの森」とは、魚が集まるような豊かな海岸林を育て守る取り組みのこと。浜益小学校の4年生をはじめ、農協、漁協、岸本産業(株)の方々や千本ナラ保存会会長も参加し、ミズナラの苗150本が植えられました。



数百年後の未来に第2、第3の千本ナラとなってほしいと、願いは一緒。

青空の下、スポーツと食を楽しむ ERIS

6月26日(日)、厚田中学校グラウンドと厚田公園を会場に「2011厚田区スポーツと食の体験」が開催され、小学生から高齢者まで約200人が参加しました。今回は主催者の厚田区自治体育振興会の設立5周年にちなみ、「昔懐かしシリーズ」として、厚田村当時に実施していたスポーツイベントを実施。交流会パーティーでは、かつて厚田勤務だった学校の先生がサプライズで数名登場し、ジギスカンを囲みながら思い出話に花を咲かせていました。



地元特産品を食べてリレーする「走っていしかりまるかじり」。全長20mの流しそばなどの体験もありました。

昔お世話になった先生を囲んで。